

## 平成 30 年度事業計画

第 18 回国際薬理学・臨床薬理学会議 (WCP2018) の京都開催が、いよいよ今年の 7 月に迫ってきました。WCP2018 は第 91 回日本薬理学会との同時開催になります。日本薬理学会は、WCP2018 組織委員会と協力して国際会議を成功させるとともに、薬理学会の更なる活性化を図ることを本年度の重点目標とします。国際連携強化の一環として特別委員会に国際対応委員会が設置されており、本委員会を軸に理事会、各委員会が一致協力して、WCP2018 の成功と学会国際化の推進に向けた活動を進めます。さらに、WCP2018 終了後の 2019 年以降の年会の活性化に向けた活動も年会学術企画委員会を中心に進めます。

学会機関誌については、編集委員会ならびに広報委員会を中心に更なる質の向上に努めます。特に、国際情報発信強化助成金を用いた Journal of Pharmacological Sciences (JPS) の国際誌レベルアップを一層進めてまいります。新しい薬理学パンフレット (邦文および英文) も作成する予定です。

次世代の会の活動の充実、薬理学エドゥケーター制度の導入、看護薬理学への対応などの検討を行い、若手研究者も含めた学会活動の促進に取り組んでいきます。

財政状況につきましては、会費収入の漸減傾向が続いていますが、前期理事会から引き続いての経費削減努力により、収支バランスが好転しました。それを受けて、会員管理システムのリニューアルを行い、連動した諸種システムなどを一本化しました。今後も会員の方の手続き利便性の向上を目指します。事務局体制につきましては、平成 32 年度以降も 5 年ごとの見直しを行いながら継続することを決定しましたので、新規職員の採用等も含め、将来も安定した学会運営体制の構築を目指します。

本会の更なる発展を目指すため、会員の皆様のご理解と一層のご支援ご協力をお願いいたします。

理事長 赤池 昭紀

### 1 薬理学研究の進展及び薬理学研究者育成のための学術集会及び講演会等の開催事業 (公益目的事業 1)

#### (1) 年会の開催

第 91 回年会は、WCP2018 と 7 月に同時開催。

- ・第 91 回 日本薬理学会年会 特別年会長：成宮 周(京都大学・院・医)  
平成 30 年 7 月 1 日～6 日 京都国際会議場

#### (2) 地方部会の開催

6 回の地方部会を開催する。多彩な企画を予定している。

- ・第 138 回 日本薬理学会関東部会 (平成 30 年度総会を開催)  
部会長：三澤日出巳 (慶應義塾大学・薬)  
平成 30 年 3 月 10 日 慶應義塾大学薬学部
- ・第 69 回 日本薬理学会北部会  
部会長：松本 欣三 (富山大学・和漢医薬研)  
平成 30 年 9 月 21 日 富山国際会議場
- ・第 139 回 日本薬理学会関東部会  
部会長：初山 俊彦 (東京慈恵会医科大学・医)  
平成 30 年 10 月 20 日 東京慈恵会医科大学一号館
- ・第 133 回 日本薬理学会近畿部会  
部会長：酒井 規雄 (広島大学・院・医歯薬保健)  
平成 30 年 6 月 1 日 広島県医師会館
- ・第 134 回 日本薬理学会近畿部会  
部会長：徳山 尚吾 (神戸学院大学・薬)  
平成 30 年 11 月 23 日 神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
- ・第 71 回 日本薬理学会西南部会  
部会長：笹栗 俊之 (九州大学・院・医)  
平成 30 年 11 月 17 日 九州大学医学部百年講堂

#### (3) 市民公開講座の開催

科学的で正確な薬理学的知識に基づいて、薬物に関する正しい知識を国民に対して広めること及び薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動の一環として地方部会と連動して 3 回の市民公開講座を開催する予定である。

- ・公開講座 (第 69 回北部会) 平成 30 年 9 月 22 日、富山国際会議場 (富山市)
- ・公開講座 (第 134 回近畿部会) 平成 30 年 11 月 23 日 (予定)、神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
- ・公開講座 (第 71 回西南部会) 平成 30 年 11 月 17 日 (予定)、九州大学医学部百年講堂

#### (4) 次世代薬理学セミナーの開催

日本の薬理学研究の活性化及び国際プレゼンスの向上のため、意欲と能力のある若手を育成し、学会活動への積極的な参画を促すため、若手研究者による若手研究者を対象の次世代薬理学セミナーを開催する。

- ・次世代薬理学セミナー2018『薬理学の次世代を築く新たなアプローチ』

平成30年3月10日、慶應義塾大学薬学部マルチメディア講堂

## 2 薬理学に関する学理及び応用の研究についての知識の普及を目的とし、学会誌等を刊行する事業（公益目的事業2）

(1) Journal of Pharmacological Sciences を全面電子体のオープンアクセス誌として刊行する。

- ・2018年刊行予定：136巻1～4号、137巻1～4号、138巻1～4号

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとかからだ／ファーマコロジカ）の刊行

- ・2018年刊行予定：151巻1～6号、152巻1～6号 計12冊

(3) 「日本の薬理学研究の貢献（仮称）」を記載した日本語版、英語版のパンフレットを作成し、WCP2018の参加者に配布する。

パンフレットは和英ともにホームページに掲載し、全世界への一般向け情報として発信する。

## 3 優れた業績をあげた研究者の表彰及び研究の一層の飛躍を期待した研究奨励のために、各賞を設置し、研究者と研究業績を表彰する事業（公益目的事業3）

(1) 江橋節郎賞

日本薬理学会名誉会員故江橋節郎先生の生命科学への貢献を末永く顕彰するため、江橋節郎賞を創設し、独創的、飛躍的な業績をあげ、薬理学の進歩に大きく貢献した研究者に授与しているが、薬理学の振興という本賞創設の趣旨に則り、第10回より、これからますます発展が期待される若手研究者も受賞対象として推薦を受け付けている。

- ・第11回江橋節郎賞受賞者の受賞講演は、平成30年7月のWCP2018開催中に行われる。

萩原 正敏（京都大学大学院医学研究科）

『先天性難病等の治療を可能とする創薬研究』

- ・第12回江橋節郎賞は5月末日までに募集を公告し、推薦の締切は8月末日、江橋節郎賞選考委員会の選考を経て理事会で決定する。

(2) 学術奨励賞

薬理学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される研究者に学術奨励賞を授与する。

- ・第33回学術奨励賞受賞者3名の受賞講演は、平成30年7月のWCP2018開催中に行われる。

泉 安彦（京都大学大学院薬学研究科薬品作用解析学分野・助教／神戸学院大学薬学部薬理学研究室・講師）

『ドパミン神経軸索伸長の新たな評価系の確立とその制御因子に関する研究』

岡田 宗善（北里大学獣医学部獣医薬理学研究室・准教授）

『心疾患における細胞外マトリックス分解断片 canstatin の役割解明』

清水 孝洋（高知大学教育研究部医療学系基礎医学部門薬理学講座・准教授）

『ストレス反応の脳内制御機構に関する薬理学的研究』

- ・第34回学術奨励賞は5月末日までに募集を公告し、推薦の締切は8月末日、賞等選考委員会の選考を経た3件以内の候補者について理事会が決定する。

(3) JPS 優秀論文賞

過去3年間にJPSに掲載された論文の中で引用回数の多い順に毎年約10編の中から特に優れたものを選出し、その著者にJPS優秀論文賞を授与する。

- ・第22回JPS優秀論文賞受賞2編の授与式はWCP2018開催中に行われる予定。

- ・第23回JPS優秀論文賞（本賞授賞の趣旨に則り）3編以内を決定する。

(4) 年会優秀発表賞

平成30年の年会はWCP2018と同時開催のため、年会優秀発表賞選出は無し。

(5) 優秀査読者賞

Journal of Pharmacological Sciences の査読者の質を向上させ、掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で5名以内にJPS優秀査読者賞を授与する。

#### 4 薬理学及びわが国学術文化の進展・発展への寄与を目的とした、内外の関連学術団体との連携及び協力事業 (公益目的事業4)

##### (1) 日本学術会議との連携

日本学術会議協力学術研究団体の一員である本会は、日本学術会議国際対応分科会の活動として国際連携を推進する。

##### (2) 生物科学学会連合との連携

加盟団体と情報を共有して「生物科学」の健全な発展に協力するために、定例会議に出席する。

##### (3) 国内の関連学術団体と連携して共催シンポジウム等を開催する。

- ・日本毒性学会との共催シンポジウム 平成30年7月18日～20日、大阪国際会議場  
シンポジウムタイトル：『毒性発現と性差』，オーガナイザー：黒川 洵子（静岡県立大学・薬）
- ・日本看護研究学会第44回学術集会との合同シンポジウム 平成30年8月，熊本県立劇場
- ・看護薬理学カンファレンス2018として看護の複数の学会と合同でシンポジウムを開催する。

##### (4) 第18回国際薬理学・臨床薬理学会議（WCP2018 京都）を開催する。

- ・第18回国際薬理学・臨床薬理学会議（第91回日本薬理学会年会，第39回日本臨床薬理学会学術総会と同時開催）

平成30年7月1日～6日 京都国際会議場

WCP2018 会長／第91回日本薬理学会特別年会長：成宮 周（京都大学・院・医）

WCP2018 副会長／第39回日本臨床薬理学会学術総会長：川合 眞一（東邦大学・医）

- ・IUPHAR Education Section サテライトシンポジウム

平成30年6月30日 京都国際会議場（予定）

##### (5) 発展途上国等の薬理学教育推進への協力について

発展途上国等の薬理学教育を推進する IUPHAR Education Project への援助を年間1万ドル、3年間の期限付きで行っている。

第1回は平成28年に、第2回は平成29年に送金済みで、平成30年が最終（第3回目）となる。

#### 5 その他

##### 1 会 員

- ・平成29年度末の会員数は平成28年度末の会員数4,596名から減少する見込みである。第91回年会がWCP2018と同時開催のため、平成29年秋口の入会者が例年より少ないこと、またシニアの退職に伴う退会は例年どおりである。
- ・新会員管理システムは平成29年8月に稼働した。平成30年より、学術集会参加登録機能を装備し、会員登録情報と連動させて参加登録手続きの利便性向上に努める。郵送中心であった各種申請や賞への応募等も規則との整合性を保ちながら電子申請への移行を進めている。

##### 2 業務執行体制の整備と強化

- ・代表理事1名、業務執行理事3名による執行体制で常務理事会を構成し、次期理事長を加え様々な課題に取り組む。

##### 3 社会に向けて

- ・公開講座を開催し、科学的で正確な薬理学的知識に基づいて、薬物に関する正しい知識を国民に対して広めること及び薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動を継続する。
- ・倫理委員会規定を制定し、科学者の行動規範に反する不正行為の防止に取り組んでいる。

##### 4 事務局体制について

- ・財務状況の見直しを定期的に行うことを条件に2019年度以降も事務局を存続させる方向で新規職員を採用し、事務局業務の円滑な移行を進める。